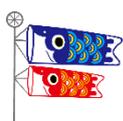




楽楽

平成 27 年 5 月号
広報担当 近藤<http://asahikon.sakura.ne.jp>

◆練習スケジュール◆

月 / 日	会 場	時 間	備 考	
5 月	16日(土)	旭丘公民館	19:00~21:00	
	23日(土)	//	//	※特練 21:00~21:30
	31日(日)	//	//	18:00~男声ボイトレ
6 月	6日(土)	//	//	18:00~女声ボイトレ
	13日(土)	愛知県合唱祭		※詳細は別途ご案内します
	20日(土)	旭丘公民館	19:00~21:00	※特練 21:00~21:30
	28日(日)	//	//	
7 月	4日(土)	//	//	
	11日(土)	//	//	
	18日(土)	//	//	
	25日(土)	//	//	
	26日(日)	//	11:00~13:00	コーラスフェスティバルの直前練習
	26日(日)	尾張旭コーラスフェスティバル		※詳細は別途ご案内します
8 月	1日(土)	旭丘公民館	19:00~21:00	
	8日(土)	//	//	
	22日(土)	尾張旭市文化ホール/ホール練習		※詳細は別途ご案内します
	29日(土)	旭丘公民館	19:00~21:00	

※通常練習後の「特練 21:00~21:30」は 7 月以降も実施予定ですが、
日程が決まり次第、順次お知らせいたします注意：

<会計より>

～～団費支払方法の変更及び演奏会費用負担金の件～～

先の総会において団費支払方法が変更になりました。

月初め各自団費を封筒に入れ、各集金担当または PM が集金。

それを会計が一括して集金いたします。

また、演奏会費用負担金を今月（2015年5月）より、月 1,000 円徴収させてもらうこととなりました。来年度の演奏会期日までを予定していますが、演奏会の規模、予算が確定してきた上で、団員に期日を報告いたします。

また、演奏会負担金は全員が演奏会に参加することを条件にしていますので、お休みの月も 1,000 円徴収させていただきます。

★突撃インタビュー★



**昨秋入団されましたアルトの田坂 千鶴子さんです。
気さくに話しかけて下さる明るい笑顔がほんとに素敵！
ご主人様とご一緒に入団されました。**

似顔絵作成・A、松本

■自己紹介をお願いいたします。

住まいは瀬戸市の水野団地、南山中学のすぐ東側です。10月29日生まれでさそり座の女。血液型は型にはまる気の小さい、典型的なA型です。横浜で勤めていた主人が工場移転で尾張旭へ。地方公務員だった私は、産休に入る時だったので、辞めざるを得ませんでした。でも3年後、受け直して仕事に復帰、定年まで勤めました。

■合唱以外のご趣味や続けていらっしゃることは？

退職後、7年前からスポーツジムでストレッチ、マシン、フラダンス、アクアビクス、2年前から水泳を始め、今、バタフライにはまっています。

それからボランティアを三つ。一つは瀬戸市のおもてなしボランティア、二つ目はデイサービスで「みんなで歌いましょう」、この二つは主人や仲間と一緒に10年間続けています。もう一つ、日本にいる外国人に「日本語を教える」ボランティアです。小学生から60歳位の人まで、日本語ゼロの人から、日本語検定一級に受かった人まで、15ヶ国40人ほどの人に23名の仲間分担して日本語を教えています。以前はブラジル人が多かったのですが、このところフィリピンやタイの人が多くなりました。

■合唱との出会いもお聞かせくださいな。

中学二年の時、山梨県民会館の柿落として合唱することになり、急遽集められ歌ったのが合唱の楽しさを知った始まりです。それから大学の時、気が弱く人前でどきどきして声が出なくなるのを克服するため、混声合唱団に入りました。だから入団理由は、声が良い訳でも歌が上手い訳でもありませんでした。でも合唱コンクールで岡山の全国大会まで行って歌いました。楽しかったです。今でも毎年当時の仲間の集まりがあります。

そして20年前、主人に誘われて、「瀬戸第九」の10回目の時、名フィルオケ最後というので「第九」を歌いました。それがきっかけで瀬戸市民合唱団へ入り、団の指揮者の関係で海外演奏旅行、オペラ出演、ブルックナーのミサ等、大曲演奏を楽しみました。

■入団されたきっかけは？

瀬戸市民合唱団の指揮者が亡くなり、石川先生からのお誘いもあり、主人が「旭混声に入る。」と言ったので、私も一緒に入りました。主人と一緒に私はいろいろ楽なのです。神谷先生には何回かご指導を受け、合唱フェスティバルで指揮していただいたことがあり、石川先生にはメサイアやミサソレなどでお世話になっていましたので、素敵なお二人の事はよく存じ上げておりました。

■団の皆様へひとことお願いします。

入団してみて、前向きで活気あふれる「旭混声」で長く歌って行きたいと思いました。自分なりに精一杯努力していくつもりですので、よろしく願いいたします。

《落ち着いた、優しいお人柄に惹かれます。アルトがまたまたパワーアップしましたね(*^_^*)。S, 植村》



◆第54回 愛知県合唱祭 について

日 時:6月13日(土)

会 場:名古屋文理大学文化フォーラム(稲沢市民会館)

演奏曲目:チルコット「おぼろ月夜」「紅葉」 …もちろん暗譜です

衣 装:

女声=単色かつ淡色系のブラウスカシャツ(長袖半袖 OK/白は不可)

白っぽいパンツかスカート

白っぽい靴

男声=単色かつ淡色系のシャツ

(長袖半袖 OK/出来るだけ団指定のピンクシャツは避けて下さい/白は不可)

白っぽいズボン白っぽい靴

※男女ともアクセサリ可(ただし、派手なものは避けて下さい)

※ご不明な点は衣装係にお尋ねください

シューベルト ミサ曲第2番 ト長調 D167について(引用 ネットから)

作曲 1815年3月2日~7日(18才)

初演 1815年 リヒテンタール協会

編成 ソプラノ、テノール、バスの独唱、混声4部合唱、弦楽4部、オルガン

詳しい作曲動機はわかりません。リヒテンタール協会での第1番D167の初演が大成功だったため、その第2弾として作曲、演奏されたものでしょう。

たった5日間で完成されました。コンヴィクトを退学し、父の学校で助教員として働き始めたころですが、きわめてたくさんの作品を書き上げた時期で、この作品にも意欲的であったことの現われと思います。

シューベルトのミサ曲の中で最も規模が小さいもので、ソプラノ、テノール、バスの独唱に、混声四部合唱、弦にオルガンという編成でかけられました。のちに兄のフェルディナントによってトランペットとティンパニのパートが書き加えられたようです。

第1曲 Kyrie ト長調 4分の3拍子

三部形式で書かれています。「主よ、憐れみたまえ(Kyrie eleison)」と美しくやさしく混声合唱が歌いだします。中間部はイ短調で、ソプラノの独唱で歌われます。

第2曲 Gloria

「Gloria」とは栄光の賛歌を意味します。三部形式で書かれています。

オーケストラの二長調の明るく堂々とした音階と和音連打により始まり、コーラスが「Gloria in excelsis deo(天のいと高きところには)」と華やかに歌われ出します。中間部では曲調が落ち着き、「Domine Deus, Agnus Dei(神なる主 神の子羊)」と下降するフレーズが、ソプラノとバスの独唱によりリフレインされながら、それに対しコーラスが「miserere nobis(われらを憐れみたまえ)」と返します。

再び冒頭の華やかさが戻り、オーケストラが音階を低高弦で交互に繰り返す華やかな効果を織り込みながら、幾分短めに曲は閉じます。

第3曲 Credo

「Credo クレド」とは、信仰の告白を意味するものです。キリスト教の主要な教義を列挙した祈りとなっています。4分音符ののろやかなバスの動きにのり、コーラスが起伏の少ないのろやかな旋律を歌いだします。なかごろで高潮し、「Et ascendit in caelum（天に昇り）」のあたりでクライマックスとなります。そして頭の部分がもどり、終結部ではのろやかに「Amen」と締めくくります。

第4曲 Sanctus

天地の創造者、支配者、人類の創造者、庇護者である神に感謝し、その威光を讃えて歌うのサ Sanctus ノクトゥスです。Adagio の力強い響きの中に「聖なるかな（Sanctus）、聖なるかな、聖なるかな。万軍の神なる主。主の栄光は天地に満つ」と歌い上げます。

そして Allegro になり、「いと高きところに、Hosanna」と各声部が掛け合いをし、フーガの始まりのように歌い上げられ、短いながらも華やかに曲を閉じます。

第5曲 Benedictus

Benedictus は「祝福」を意味します。アンダンテ・グラジオーソのやさしい表情で始まります。最初にソプラノが歌い、テノールとの二重唱となり、バスとの三重唱となります。シュールベルトらしさのあふれる曲です。

後半は Sanctus のフーガ的な部分が受け継ぎ、華やかに終わります。

第6曲 Agnus Dei

「Agnus Dei」は神の子羊という意味です。ミサの典礼においては、司祭と祈りに来た人との間に「主は皆さんと共に」のあいさつがあったあとで歌われる。

曲調はホ短調で、美しくソプラノで歌われ、コーラスが呼応します。間奏のあと、同じ旋律をバスが、引き継ぎ、やはりコーラスの呼応のあと、オーケストラの短い間奏をはさみ、再びソプラノとコーラスの呼応のあと、にト長調でおだやかに全曲を閉じます

今日のほやし

昨年の尾張旭の合唱祭以来、半年ぶりのステージが6月にある。稲沢、瀬戸、尾張旭のホールで、気持ちよく歌えるところ、周りの音が聴きづらく不安で気持ちよく歌えないところなど、様々である。(私はあがり症でどこでも不安ですが…)。特に稲沢のホールは舞台の上の音が聴きとりにくく、私は感じる(いつも最後列なので、どこにいても聴き取りにくい)が…。

すると舞台の上が“ふ～あ～ん”という空気につつまれ、いつもの力が発揮できないという気がする。

しかし、我が団には、石川先生という心強いピアニストがいる。周りの音が聞こえなければ、ピアノの音に耳を傾けて、指揮者を見て、指揮を感じて、そしてホール全体を感じて歌えば怖くない(と自分にいいかせ)。

そのためには、ピアノの音に練習から耳を傾けることが大切。また、公民館の部屋は舞台の上、その先に観客席があるイメージを持って練習にのぞめるといいなあ。歌ほどイメージに左右される楽器はない。(ボソボソ…)

まさよ